

なりたの昔話

第6回

このコーナーでは、昔から語り伝えられてきた成田の昔話や伝説などを掲載しています。
【参考文献】コミュニティ成田No.55(平成8年発行・成田市)

甘酒

ある日、婿が嫁さんの実家に遊びに行ったら、馳走ちそうがふるまわれた。麴こうで作ったという甘酒というもんが出て、「こりゃあ、うめーもんだア」と気に入ってしまった。

婿は実家に泊まることになった。夜も更けて床についたが、どうしても甘酒が忘れられず、家の者が寝静まるとノソノソと起き出して台所で甘酒を探した。戸棚に甘酒のカメがあるのを発見。手ですくって飲んでいたが、そのうち、

「えーい、面倒だ！」

とばかりカメに首を突っ込み、ガブガブ飲んだと。さて、飲み終わって、首を抜こうとしたが、

「ややや、抜けねエ」

あわてた婿は、カメをかぶったまま土間に這い出した。

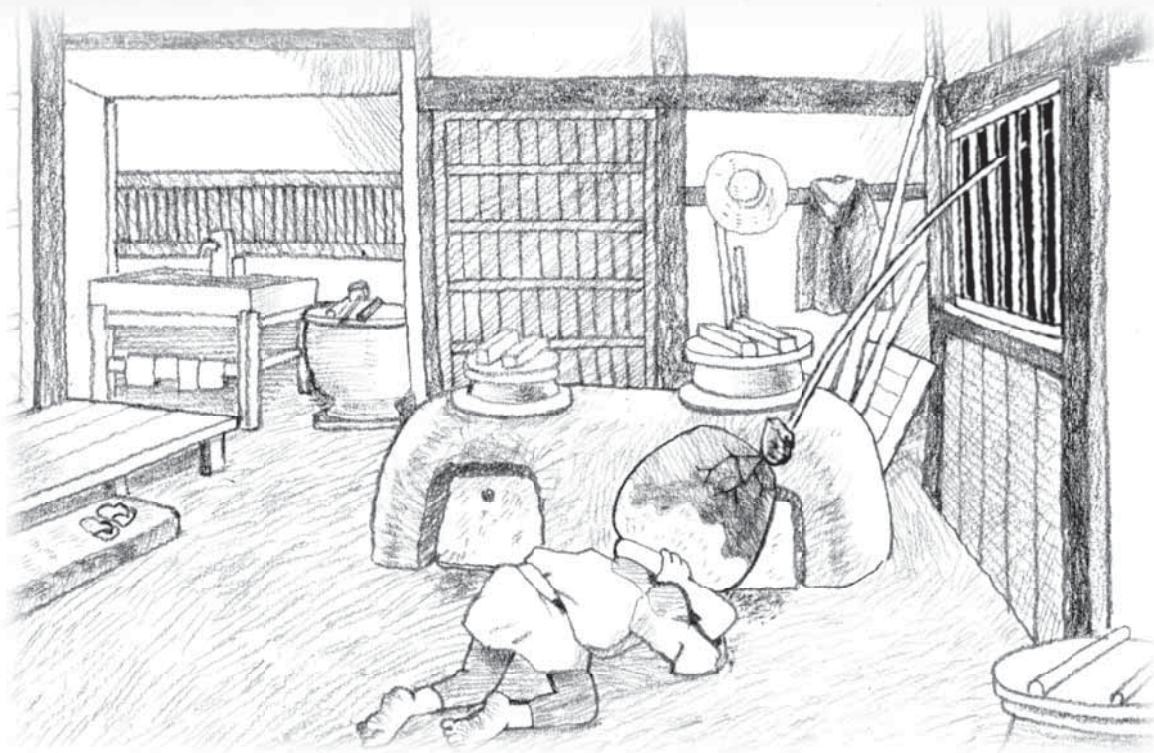
ちょうどその時、家の主人が便所を使っているところだった。昔のことだ。紙がなくて石で尻を拭いたと。拭き終わった石を、

「エーイ」

とほおり投げた。そこへ、婿が這い出てきた。石は、ちょうどカメに命中。

「ガチャーン」

とカメが割れて、中から困った顔が出てきたと。



編集後記

11月1日から始まったこの冬の「ウォームビズ」。環境省では、一人一人が暖房を使うのではなく、家族で1つの部屋に集まることや、家庭の暖房を止めて公共施設や商店街を利用することで、エネルギーの節約につながる「ウォームシェア」を呼び掛けています。このウォームシェアにはお鍋がピッタリ。根菜類やショウガなど体を温める食材を使い、家族や友人とお鍋を囲んで体も部屋も心もポカポカにしてみませんか。

平成24年11月15日号 No.1231

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。